

園の輪

そののわ No.181

学校法人 甲子園学院



マリーローランサン「ギターを持つ乙女」(甲子園学院美術資料館蔵)

CONTENTS

〈ESSAY 2022〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4～9
「『生活習慣病』って、生活習慣が原因ですか？」	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
西田昌司	
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
食創造学科設置記念シンポジウム開催	
学院物故者慰霊塔参拝(高野山)	
甲子園学院80年史発刊	

「生活習慣病」って、生活習慣が原因ですか？

西 田 昌 司



「突然ですが、あなたは自分が何で死ぬと思いますか？」。公衆衛生学の最初の授業で私がする質問です。答えは「ガンか、心筋梗塞と脳卒中を起こす動脈硬化疾患」です。この2つで、1950年代以降、日本人の3人に2人が亡くなっています。これらの疾患は「成人病」と呼ばれ、働き盛りに発症して日本の経済成長の活力を削ぎかねないことから、健康診断や人間ドックが広く行われるようになり、早期発見・早期治療に努めてきました。

ところがガン、心筋梗塞、脳卒中で亡くなる方は、20世紀の後半になっても思ったようには減りませんでした。困ったことに「成人病」という名前は、加齢とともに仕方なく罹ってしまう病気という捉え方もされるようになりました。ちょうどその頃、米国ではガンや動脈硬化疾患と生活習慣との関係が注目され、みなさんもよく目にする食品成分表示や低脂肪食品の普及が始まりました。その結果、人々が積極的に生活習慣に注意を払うようになり、なんと心筋梗塞や脳卒中による死亡率が減少し始めたのです。日本でも遅ればせながら1990年代に入り、生活習慣の改善によって健康を増進し、ガン、動脈硬化疾患を減らそうという流れが起りました。これが「生活習慣病」の考え方です。

全く同じ病気を「成人病」と呼んだり「生活習慣病」と呼んだりしていますが、実はこれは呼び名だけの問題ではありません。「成人病」には、社会の活力を削ぐ病気を社会の責任で早期に発見し、治療していいという考えが根底にあります。一方、「生活習慣病」では、個人の生活習慣が病気の原因だから個人の努力で病気を予防しようというように、予防の主体が180度変わっています。「疾病の自己責任論」です。この考え方が進むと、何回も風邪を引く人は生活習慣改善の努力をしていないので保険料が高くなる「成功報酬型保険制度」が、健康保険に取り入れられる可能性があります。自動車保険と同じです。生命保険では、喫煙などの生活習慣によって保険料が上がる保険が、もう既に売り出されています。

皆さんは納得できますか？ガンや動脈硬化疾患は、個人の生活習慣だけで発症するのでしょうか？身体活動を伴わないオフィスワークの増加のような社会環境の要因、言葉はきついですが「ガン家系」のような遺伝的要因、さらに「成人病」という名前のとおり加齢も実際に大きな発症要因となっています。社会環境、遺伝、加齢を個人の努力で改善するのは困難で、座業が増えて高齢化も進んだ現代社会では、「生活習慣病」は不可避な疾患だとも考えられます。もちろん悪い生活習慣をやめて良い生活習慣を取り入れることによって、社会環境、遺伝、加齢の要因を乗り越えるのが基本です。しかし「生活習慣病の原因は生活習慣だけ？」と常に疑う姿勢も、健康情報があふれる現代社会では大切になってきます。

にしだ まさし ● 甲子園大学特任教授 保健管理センター長 学院産業医

昭和52年東京大学理学部卒業、昭和54年東京大学理学研究科修士課程修了、昭和58年大阪大学医学部卒業、平成元年大阪大学医学系研究科博士課程修了、同年ハーバード大学研究員、平成8年大阪大学医学部助手、平成12年神戸女学院大学人間科学部教授、令和3年4月から現職。専門は内科学、循環器内科学、細胞生物学

「食べる」を、仕事にする

甲子園大学栄養学部
食創造学科 2023年4月誕生

甲子園大学は令和五年度に、栄養学部食創造学科を開設します。

食創造学科は、健康の増進と食の諸問題に寄与することを目的にスタートした甲子園大学が、半世紀の歴史を礎に、さらなる時代を指し示す新設する学科です。

日本のGDPの約三分の一をフードビジネスが占め、働く人の約八人に一人がフードビジネスで働いています。生命の根幹を支える「食」は決してなくなることはない分野であり、時代と共に多様化、高度化、複雑化の一途をたどっています。そして、これからの「食べる」の分野では、専門家と消費者の橋渡しをする人が求められています。みんなが豊かに幸せに。そんな願いをカタチにできる人が、いま求められています。(パンフレットより)



知る、聞く、体感できるイベントのあるオープンキャンパスは、七月二十四日(日)、八月二日(火)、二十一日(日)、九月四日(日)に予定しています。

食創造学科設置記念 シンポジウム 宝塚で「食」を語る

五月二十二日、宝塚市立文化施設ソリオホールで、食創造学科設置記念シンポジウム「宝塚で「食」を語る」を開催しました。

前半の基調講演は、料理研究家で甲子園大学客員教授の土井善晴氏から「私が「食」のプロになるまで」というテーマでお話がありました。

「料理をすることは自立することであり、人間の幸せを考えることが大切である」と料理をする時の心構えについて語っていただきま。後半のパネルディスカッションでは「これからの「食」にできること」というテーマで、意見を交わしました。



パネリストには、フードコラムニストの門上武司氏、京料理「木乃婦」三代目主人の高橋拓児氏、アサヒ飲料商品開発研究所所長の安江奈美子氏、宝塚市長の山崎晴恵氏、コーディネーターは伏木亨氏、甲子園大学副学長が務めました。

今回のパネリストには、「食」や「宝塚」に縁の深い方に集まっていたので、「これからの食」や「宝塚の街」などについて様々な立場からの意見発表がありました。



食にまつわる仕事に興味をもった人の育成をどうすればよいのかについて、活発な討論が行われました。食創造学科は「食べる」を仕事にできる幸せ」をコンセプトにして開設する学科です。「食」に関わる様々な分野から、「食のクリエーター」を目指して学びを深めることができるようにカリキュラムが設計されています。

また、宝塚市西谷地区では質の良い野菜が生産されており、宝塚市の食産業の振興を図るためにも、宝塚市、企業、大学が連携することの重要性も確認されました。

参加者のアンケートでは、食創造学科で興味を持ったことについて聞いてみると、「自由設計カリキュラムに興味を持った」「食を通じてコミュニケーションや知識の幅が広がる」「時代に合った学科である」「食の多様化に対応している」などの意見がありました。

高野山慰霊塔参拝

創立記念日である五月一日、小雨ではありましたが、美しい新緑の高野山にて、学院物故者慰霊塔参拝を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限などもあり、三年ぶりの実施となりました。

参加人数も制限し、久米知子理事長・学院長及び法人・各学校園教職員と翠柳会(学院各学校卒業の学内職員の会)の計三十二名が参拝しました。



慰霊塔は、久米長八校祖と、久米利男前学院院长をはじめとして学院関係者の霊を合祀し、永くご冥福をお祈りするとともに、先人に対する報恩感謝の心を捧げ、毎年参拝を行っています。また、小学校、中学校、高校、短大、それぞれの児童・生徒・学生は在学中に慰霊塔に参拝して建学精神の実践を誓っています。

甲子園学院八十年史 刊行

昭和十六年四月の高等女学校開校からの歩みの中でこの十年間を「甲子園学院八十年史―この十年の歩み―」として七月に刊行します。編集委員会は、各学校園と法人事務局の教職員で構成され、一昨年八月に発足いたしました。

第一編は「創立から七十年まで」として簡潔に記述、第二編は「この十年の歩み」として、大学から幼稚園までの各学校園と法人の歩みを詳述しました。最後に資料と年表を掲載しています。資料



としては、学院の組織や教育振興基金の実施事業があります。サイズは、A4版、約二三〇ページ、口絵、写真特集はカラー印刷、本文・資料編・年表はモノクロ印刷となります。

官公庁など学院と関係の深い機関等に贈呈するとともに、学院の伝統を振り返り、今後の教育実践の資料として活用します。

入園式

四月八日、少し大きめの制服に身を包んだ新入園児たちの入園式が行われました。

新入園児たちは、保護者と一緒に少し硬い表情でホールへ入り、友だちとベンチに座り佐々木園長のお話を聞きました。



続いて年長児による幼稚園紹介のペープサートでプーさん、滑り台、給食、お兄さん、お姉さんなどが登場すると、新入園児たちは目をキラキラさせながら大喜びで見えていました。

初めての制服、初めて出会う友だちや先生、初めて入る保育室に緊張した表情の子どもたちでしたが、担任から「今日から幼稚園のお友だちだよ」と話しかけられ、名札を付けてもらったり、園のたよりをもらったりする場面では、嬉しそうな笑顔が見られました。いよいよ楽しみにしていた幼稚園生活の始まりです。毎日楽しく通ってくれることを願います。

ひまわりが集う

四月二十八日、心地良い風の中、全園児が園庭に集まり、こどもの日の集いを行い、各学年のこいのぼりを見せ合いました。学年が上がると、ウロコのデザインが様々に工夫され、大きくて長いこいのぼりができあがりました。

みんなで「こいのぼり」の歌を歌いながら、各クラスのこいのぼりを上げました。色とりどりのこいのぼりが大空を悠々と泳いでいるのを見て、「うわー。きれいだ。気持ちよさそうに泳いでいる。ジャンプしたら届くかな？」などと拍手や歓声が上がりました。



その後、みんなでいろいろな動物になって動く「どうぶつ体操1・2・3」を元気いっぱい行いました。体操が終わると、子どもたちはこいのぼりにジャンプして届くか挑戦したり、嬉しそうに眺めたりしていました。こいのぼりが、日々元気に遊んでいる子どもたちの成長を見守ってくれていることでしょう。

春の遠足 年長組 五月二十四日

雲一つない青空のもと、年長組が春の遠足に行きました。行き先は「伊丹スカイパーク」です。当日、子どもたちはわくわくした表情で登園し、出発が待ちきれない様子でした。



飛行機を探しキョロキョロする子どもたちでしたが、先に楽しそうな遊具を見つけると「あれ何？遊んでいいの？」と飛行機のことをすっかり忘れ、目の前の遊具に釘づけになっていました。昼食時には、おにぎりをおいしく食べながら飛行機の離着陸を見たり、大きな音に驚いたりし、十分飛行機にも触れることができました。昼食後は、子どもたちが楽しみの



えんどう豆の収穫

新緑が目眩しい五月。年長児が年中時の冬に蒔いた、うすいえんどうの種が子どもたちと同じ背丈に大きく成長しました。はじめは短かったつるもぐんぐん伸び、白いスイートピーのような可愛らしい花を付けた後、小さいやがついてのを発見！さやが膨らむ様子を見て「先生、そろそろ食べられるんじゃない？」「美味しそうになってきたよ。」と、大切に見守り育てていました。

そして、いよいよ収穫。さやを開け、中に入っている豆の数を友



だちと数えたり、大きさを比べたりした後、炊飯器に入れて待つこと約一時間。蓋を開けた時の白い湯気と豆の香りに、歓声が上がりました。収穫したの豆を使ったごはんのおいしさは格別！豆が苦手な子どももおかわりしました。自分の手で種をまいて世話をし、収穫して食べる喜びを味わう姿が見られました。

つぶやき Pick up すくすく大きくなあれ

にしていた遊具での自由遊びです。友だち同士誘い合い、思う存分遊びました。どの子どもたちも汗びっしょりになりながらも、とても満足した表情でした。今日という一日が子どもたちの心の中に、楽しかった思い出として残ってくれますように！

「頑張れ、こいのぼり」

「こいのぼりさん、おはよう。今日もいっぱい泳いでね」園庭遊びの時、こいのぼりを見上げながら、子どもたちが口々に声をかけます。強風に煽られて、今にも飛び立ちそうない日、「こいのぼりさんが競争しているよ。一等賞は誰かな？」全くの無風状態の日、



「こいのぼりさん、おはよう。今日もいっぱい泳いでね」園庭遊びの時、こいのぼりを見上げながら、子どもたちが口々に声をかけます。強風に煽られて、今にも飛び立ちそうない日、「こいのぼりさんが競争しているよ。一等賞は誰かな？」全くの無風状態の日、

新一年生です

よろしく願います!!

○入学式（四月八日）

澄んだ青空と桜の下、今年も感
染対策を行ったうえで入学式が行
われました。担任の先生から一人
ひとり名前が呼ばれると、大きな
声で元気
いっぱい
返事がで
きました。
二年生か
らお祝い
にもらっ
た花束を
持って、
記念撮影
をしまし
た。その後、恒例のラーニングセ
ンターでの昼食会。先生たちの自
己紹介や保護者の方の挨拶など楽



しい時間はあつという間に過ぎて
いきました。
○親子の集い（四月十九日）
甲子園短
期大学のイ
ネーブルガ
ーデンへ行
きました。
芝生の上で
の楽しいお
弁当。ガー
デン内を散
策したり、
遊んだりもしました。最後には親
子で好きな花を組み合わせ、フラ
ワーキーを作りしました。保護者
同士も親睦を深める良い機会にな
りました。



楽しかった林間学校

五月十八・二十日

○高野山・奈良県天川村

二年生と五年生は和歌山、奈良
方面へ向かいました。
初日は高野山の甲子園学院物故
者慰霊塔を参拝し、御霊に手を合
わせ感謝の気持ちを伝えました。
午後は洞川
温泉郷に移
動し、キャ
ンプファイ
ヤーをして
親交を深め
ました。
二日目は
ハイキング。
鍾乳洞やつ
り橋などの名所を回りました。途



中で飲んだ
名水「ごろ
ごろ水」は
とてもおい
しかったで
す。夜には
集めた枝な
どでフォト
フレームを
作成しまし
た。三日目は関西サイクルスポー
ツセンターで、様々な自転車を楽
しました。久しぶりの宿泊行事
好天にも恵まれ思いに残る三日
間になりました。
○ユニトピアささやま
一・三・四・六年生は篠山方面に
行きました。まずは兵庫県立人と
自然の博物館で化石について学ん
だ後、アンモナイトのレプリカを



作りました。

新緑が映える大自然の中、ユニ
トピアささやまでは、六年リーダ
ーの縦割り班で元氣一杯、様々な
活動をしました。炎を囲み、集い
の良さを改めて実感できたキャン
プファイヤー。丘陵地に散りばめ
られたクイズを制覇するオリエン
テーリング。
焼き板より
木目を蘇ら
せペイント
する工芸。
夜の星空観
察。難所の
多いアスレ
チック等。
立派に先導した六年生。サポー
トした中学年。助けられ頑張った
一年生。協力して終えられたこと
に互いに拍手で讃え合い、篠山を
後にしました。



すばらしい先輩たち

大倉 敬之



第四十期生
京都大学医学部卒
京都大学大学院医
学研究科医学博士
課程PhD2

私は甲子園学院小学校の平成七
年度の卒業生で、感染症を専門と
する医師です。病院の仕事、大学
での研究、子育てなど、忙しくも
充実した生活を送っています。
今回、自分が小学生であれば聞

きたいと思うアドバイスを書くこ
とにしました。それは「したい」
勉強をして、「したい」仕事に就
くことです。時代の変化はとても
速いです。私が小学生のころには
インターネットもスマホもありま
せんでしたが、今では世界中のア
イデアが瞬時に伝わります。
一九八〇年代、医学知識が倍に
なるには三十年かかるペースでし
たが、現在はなんと二カ月まで短
縮しました。コロナウイルス流行
は生活を大きく変えました。こん
な未来は誰にも予測できません。

今後皆さんが迎える未来は、学
校の先生にもご両親にも予測不可
能で、手持ちの経験知が適応でき
ない未知の世界です。そんな中、
自分の本当にしたい勉強をして技
術を身につけてください。給料や
社会的地位は二の次です。「必要
とされる」仕事と想っていたのに、
数年後に「必要とされない」仕事
になることも多々あります。どん
な時代がきたとしても、心からや
りたいと思える勉強をし、仕事を
することで能力は開花し、きつと
社会の役に立てます。皆さんのよ
り良い未来を祈っております。

校医さんは 甲子園学院ファミリー

現在、学校医は本校の卒業生や
卒業生の保護者である四名の方に
担当していただいています。卒業
されてもずっと甲子園ファミリー
として、活躍されている先生方を
紹介します。

○歯科「よしだ歯科クリニック」
吉田 一穂 先生
（平成六年三月卒業）

○耳鼻咽喉科「大阪病院」
前田 陽平 先生
（平成四年三月卒業）



内科検診
石井 円 先生

○内科「いいいこどもクリニック」
石井 円 先生
（長男・次男小学校卒業）
○眼科「いまだ眼科」
今田 葉子 先生
（長男・次男小学校卒業）

入学式

四月七日、暖かな日差しの中、中学一年生十名、高校一年生八十四名を迎え、講堂にて令和四年度の入学式が挙行されました。



新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、理事長先生、来賓の方々、新入生の保護者（各家庭二名まで）、教職員が参列して入学を祝いました。

担任の先導で堂々と講堂に入場してきた生徒たちでしたが式が始まると一転し、厳かな雰囲気を感じたのか、少し緊張した面持ちでした。式では宮島校長からの式辞、新入生の宣誓が行われ、つつがなく式は終了しました。

教室に戻ってからは担任が所信表明をし、今後の予定などを伝えました。まだ表情が緊張していた生徒たちですが、これから始まる学院での充実した学校生活を過ごせることを願っています。



入学オリエンテーション

対面式・部紹介

四月八日に対面式、十二日に部紹介を体育館にて行いました。対面式は在校生と新入生が初めて顔を合わせる式です。新入生が入場してくると在校生が盛大な拍手とともに迎え入れました。

まず初めに、宮島校長から新入生、在校生それぞれに向けたメッセージが送られました。その後、在校生を代表して生徒会会長から新入生に歓迎の言葉、新入生代表者（高校・前田琴和さん、中学・秋山つむぎさん）から在校生に向けて誓いの言葉がありました。最後に生徒会役員が各クラスの代表者に花束の贈呈を行い、対面式は終了しました。



部紹介は新入生向けのイベントで司会進行は生徒会が行いました。

家庭との連携を強化

四月十八日・二十日に三者懇談を行いました。

一年生は新しい学校生活に慣れ始めましたが、環境の変化や人間関係などに不安や期待を抱きやすい時期です。担任とじっくり話す機会を設けることで、生徒と保護者が安心して学校生活を過ごせるようにと考えています。

二・三年生は、日々の学校生活と自宅での生活を振り返りながら家庭と連携するための情報を共有しました。

また、三年生は進路活動が本格化する時期でもあります。希望進路の実現に向けて、一人ひとりの適性や希望を十分理解し、各自の課題を明確にしました。

春季校外学習

USJ・高野山

大型連休前の四月二十八日、中学校・高等学校の全学年で校外学習を実施しました。



中学校全学年
高校一・二年生

校外学習として例年好評のユニバーサル・スタジオ・ジャパンに出かけました。コロナ禍の影響で二年ぶりの実施となりました。

中学生は学校に集合してから教員とともにUSJへ向かいました。高校生は現地集合でしたが、各自で公共交通機関をしっかりと使いこなし、大きなトラブルなく集合



することができました。

今年は天候に恵まれ、生徒たちは様々なアトラクションを楽しんでいました。特に中学二・三年生、高校二年生は、昨年行けなかった分まで満喫している様子でした。

さらに、USJは昨年の三月に、新しいアトラクションが体験できるを壮大なエリアがオープンしており、それを楽しみにしていた生徒も多かったようです。

また、吹奏楽部の演奏から始まり、運動部、文化部が続いて紹介しました。各部の目標や活動時間などを説明しながら練習の様子、作品を披露し、部のアピールを行いました。新入生はどの部活動に入ろうかとわくわくした様子で各部の紹介に耳を傾けていました。

対面式、部紹介は今年度初めて生徒会が運営し、活躍した場でした。生徒会会長の下川千博（高三）さんは、年度初めの行事を終えて「対面式で初めて新入生と顔を合わせ、緊張している姿を見ると二年前の私たちを思い出しました。



た。また、それぞれの部活動紹介を真剣な表情で聞く様子が印象的でした。生徒会には多くの学校行事に携わります。これからも生徒会メンバーと協力し、みんなが楽しい学院生活を過ごせるように全力で取り組みます。」と今後を見据えて意気込みを語ってくれました。

また、多くの生徒が時間を守って行動し、班ごとに立てた計画で園内を散策し、十分に楽しむことができました。生徒たちからは、「園内散策を通して、新たな友だちを作ることができた」「ショップの店員さんの対応がとても丁寧で、勉強になった」などの声が聞かれました。



新たな友人関係の形成だけでなく、キャリア教育の一端も担うことができた校外学習となり、有意義な時間となりました。

今回の校外学習を通して計画的に行動することの大切さなどが学習できました。この経験を学校生活に活かし、今後続く学校行事の更なる活性化を期待しています。

宿泊研修

五月九日～十一日

「七十七期生の高校生活を支える土台づくりのためのキャリア教育実践」を目的に、淡路島のグランドニッコー淡路で二泊三日の宿泊研修を実施しました。コロナ禍での研修でしたが、体調管理やマスク着用、消毒など感染防止対策を徹底して取り組みました。

「淡路島体験型SDGsプログラム」では、セミナーと見学・体験を組み合わせた、SDGsの根底にある「共創」「循環」「多様性」を学ぶことができました。断続的に小雨が降る天候にも負けず、火おこし体験に挑戦する姿が印象的でした。



ホテルスタッフの方々による「テーブルマナー講習やベッドメイキング・テーブルセット実習」では、知識や技術を学ぶだけでなく、自分たちを支えてくれる人々の存在に気づき、感謝の気持ちを芽生えさせることができました。キャリア教育の観点ではスタッフの方々の職業人としての思いに触れる貴重な機会となりました。野外活動として実施できた「仲

間づくりプログラム」では、プロジェクタードベンチャーの手法で五つのアクティビティに取り組み、



次々と編成されるグループの仲間と協力して課題解決のプロセスを体験しました。実施後には講演会形式でプログラムの振り返りを行いました。高校生活は「社会的な人間として成長できるチャンス」の宝庫であることを学びました。



六月二日、令和四年度中学校・高等学校体育大会を実施しました。感染予防の観点から規模を縮小し、午前中のみ開催となりましたが、各学年が白熱した戦いを繰り広げました。

五十メートル走、スウェーデン箱運びリレー、百メートル走、学年対抗リレー、クラス対抗仮装行列の五種目を行い、その中でもクラス対抗仮装行列は一段と盛り上がりを見せました。

クラス対抗仮装行列とは、クラス担任を仮装させ、その出来映えやアイデアを競う競技です。どのクラスも一丸となってアイデアを

高野山

高校三年生

高校三年生は高野山にある「甲子園学院物語故郷慰霊塔」を参拝しました。この慰霊塔は学院の創立者である久米長八先生の生誕百年記念事業として、昭和六十三年に建立されたものです。

慰霊塔参拝は、八十余年におよぶ学院の歴史を振り返り、それを支えてこられた先人の遺徳を偲ぶ機会です。そしてそれは、「自分



出し合い、成果を十分に発揮し、クオリティの高い仮装になりました。見事一位に輝いたのは二年一組の「メイド」でした。次いで二位は一年三組の「子泣きじい」、三位は中学三年の「白雪姫」でした。

今年の体育大会は学年対抗で行われたため、クラスのメンバーだけでなく、同学年の他クラスも応援するなど活気あふれるものとなりました。

自身もやがて歴史の一部になっていくことに気づく「はじめの一步」でもあります。生徒たちは慰霊塔を参拝し、学院への感謝と自身の進路実現に向けた気持ちを



吹奏楽部 定期演奏会

五月二十四日、あましんアルカイックホールにて本校吹奏楽部の第十二回定期演奏会を開催しました。前年度に引き続き完全予約制の入場システムを導入し、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施いたしました。

今回の演奏会は新一年生を迎え入れ、新体制で臨む初めての大会での本番でした。授業や行事等を除いた限られた時間をフルに活用し、生徒はもちろんですが、教師や講師の先生方を含む全員が、まさに当日の演奏会直前まで心一つにして最高のパフォーマンスを目指し励みました。

第一部は、「プロメテウスの雅歌」をオーブニングに飾り、今年度全日本吹奏楽コンクール課題曲

新たにしました。参拝の後は地藏院で持参した昼食を食べ、周辺を散策しました。短い時間ではありましたが、お土産を買ったり、友人たちとの会話などで盛り上がりました。

を含む数曲を演奏しました。中でもバレエ音楽「中国の不思議な役人」はコンクールに向けて取り組んでいる曲でもあり、一段と気迫のこもった演奏となりました。

第二部は「KGB紅白歌合戦」と銘打ち、企画と運営の全てを生徒たちが担うステージです。懐かしの名曲から流行のポップスまで、様々なパフォーマンスと共にとても楽しく観ていただきました。また勝敗を決める投票には、お客様にも参加していただき、会場に響く笑いと大拍手の中、定期演奏会を盛大に終えることができました。



入学式



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和四年度の入学式は四月五日、対面と遠隔を利用したハイブリッド形式で実施されました。新入生は大講義室にて対面に参加し、II回生は学科ごとに別教室で、また来賓並びに保護者の皆様には遠隔にてご視聴いただきました。当日はマスク着用、玄関にての検温・手指消毒、そして学生同士や教職員との間隔を十分にとり、教室の換気も徹底した感染防止対策を行い、会場の準備を整えました。

式は早坂学長の祝辞、続いて新入生代表の宣誓があり、厳粛な内に終了しました。引き続き新入生は、短期大学での学生生活の概要を理解するためのスタートアップガイダンスを受講しました。

短期大学では、受け身の学びではなく、主体的で積極的な深い学びが求められます。社会のためにも自らの夢や目標に向かって、歩んでいくことが期待されます。

教務システムの導入

短大では、令和二年度から試験的に導入していた教務システムの本格的な運用が始まりました。すでに昨年度は各自のスマートフォンを使って、履修状況や成績評価等を閲覧できていましたが、今年度からは自分の学習成果がリーダーチャートを活用して可視化できるようにになりました。それらをもとに自己評価や目標設定を行い、担任と共有することで、自分自身の成長につなげていけるようになっていきます。

今後も教務システムを展開・活用していくことで、学生一人ひとりの状況に応じた指導と支援を充実していきたいと考えています。

令和三年度 卒業生の進路 就職状況と学生支援

開学以来、一貫して人間性豊かに社会に貢献できる自立した女性の育成に努めている本学では、学生に卒業後は就職または進学するという社会活動への意識づけを行っています。令和三年度の就職希望率は91・9%と高く、学生一人ひとりの粘り強い就職活動により、就職内定率は94・1%となりました。就職率を高める支援の方針として、二年間を通して「就職活動の進め方」「自己分析」「接遇・マ

Society5.0に対応したICT教育設備の充実

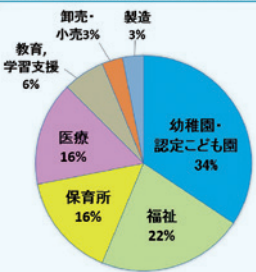
321大講義室と209講義室には固定式プロジェクトが、3階の3教室には、電子黒板機能付の短焦点プロジェクタとコントロールボックスが設置され、ICT教育推進への環境が整備されました。

電子黒板は、PCが無くても使うことができ、USBメモリを利用すれば、電子黒板に書いた内容を画像として保存することが可能で、次回授業での復習やフィードバックも容易に行うことができます。

予めPCで作成した教材データをUSBメモリに保存し、読み込み授業を行うこともでき、効率的な授業運営が可能になりました。

「内定者・卒業生による講話」「就職活動用メイク講座」等の就職ガイダンスを実施しています。また、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みWeb面接練習も含め、日頃からコツコツと就職活動を進めています。

令和三年度就職決定者の業種別内訳



接続するPCに拡張機能やアプリケーションをインストールすることで、PC側で電子黒板を操作することもでき、各種スタンプや地図、多種のテンプレートが使用可能となります。インターネット接続をすれば、さらに活用の幅は広がります。Z世代の学生を相手に効果的なアクティブ・ラーニングを勧めていく上で、多様な活用が期待されています。



高校生 エッセーコンクール 開催中

「高校生エッセーコンクール」は、本学教育の周知を兼ねて、進路選択の岐路にある高等学校生徒の皆さんに、自分探しと社会貢献に関しての早い時期での「気づき」の機会を提供することを目的に、平成二十七年にスタートしました。昨年度は緊急事態宣言中もあり、自宅学習や夏休みの課題として取り組んだ高等学校が多く、全国各地から四百通を超える応募がありました。

今年度は八回目を迎え、「多様性を認め合う社会づくりのために」私たちに取り組めること」をテーマに募集が始まっています（募集期間は九月二十二日まで）

第三回 絵本コンクール in 甲子園短大

今年度も「絵本コンクールin甲子園短大」の作品を募集します。三回目を迎えるこのコンクールの目的は、絵本づくりを通して絵本への関心を深めてもらうことにあります。読書離れが進む今、乳幼児への読み聞かせや大人対象のおはなし会など絵本を使った読書活動の啓発が注目されています。

募集期間は九月二十二日までです。高校生対象の部（高等学校在校生）と本学在学生対象の部の2部制になっています。応募規定は未発表のオリジナル作品であること等、詳細は短大ホームページで確認をしてください。

入賞作品には大学祭の表彰式で賞状と副賞が渡され、読み聞かせの動画を作成して配信の予定です。

集まった作品は厳正な審査の後、優秀賞（二点）には表彰状及び副賞として一万円相当の図書カード、奨励賞（若干名）にも表彰状及び副賞として五千円相当の図書カードが進呈されます。（各賞の受賞数は応募数等により変更の場合有）応募要項や応募用紙は、短大ホームページに掲載しています。

受賞者の表彰式は甲子園短期大学大学祭にて行う予定ですが、新型コロナウイルス感染の拡大状況により変更する場合があります。

入学式

四月四日、令和四年度甲子園大学入学式を三号館大講堂で挙行了しました。新型コロナウイルス感染症予防対策を踏まえ、新入生のみの出席となりました。

佐久間学長は「学生時代は人生の中で時間の中で自由に使える大変贅沢な時代です。若い活力に満ちた四年間に様々なことにチャレンジすること、その失敗や成功の経験から自分を成長させるきっかけをつかむことができます。ぜひ何事にも勇気をもって自ら挑んでほしいと思います」との式辞を述べました。



新入生は緊張の中にも、期待に満ちた表情で式典に臨んでいました。



式後に大学役職員の紹介が行われ、新たな学生生活がスタートしました。

新入生歓迎会

四月九日、学生団体「甲友会」の主催により新入生歓迎会が開催され、参加者は六〇名を超えました。はじめに、甲友会会長の山中陽希さんより新入生へ向けての挨拶があり、



マスタートレーナー講習会を開催

五月十日・十二日にマスタートレーナー講習会が行われました。

この講習会を受講した学生は体育館のトレーニングマシンを使うことができます。それぞれの器具の使い方、トレーニングの意義について担当の教員から詳細な説明を受けるなど、実践を交えた講習会となりました。高校時代からスポーツに慣れ親しんできた学生は「筋トレの大切さについて理解できたのでよかった。授業の合間を使って筋トレに励みたい」と話していました。

コロナ禍ということではしばらく滞っていた講習会でしたが、今後は運動競技やトレーニングも感染対策を徹底しながらなるべく通常に近い形で行っていく予定です。

甲子園大学宝塚市立看護専門学校連携協定締結

連携協定締結

四月一日、本学と宝塚市立看護専門学校とは、IPE（多職種・専門職連携教育）に関する協定を締結しました。この協定により、看護師や公認心理師・臨床心理士、管理栄養士などの多職種連携教育の実施を通して、学術や教育の分野において両校が相互に協力して、教育の充実を図り、人材育成と地域社会の発展を目指します。

懇談会開催

五月二十五日

宝塚市庁舎において、山崎春恵宝塚市長と堀内吉美宝塚市立看護専門学校校長と本学の佐久間春夫学長がIPE連携にかかる懇談会を実施しました。各専門職が、互いの職業理解を

給食経営管理論実習

給食経営管理論実習では、授業で得た知識と技術をさらに深め、臨地実習に臨むための知識や技術を習得します。



五月十日、十九日、二十六日に、学生は班に分かれて実習を行い、教職員や学生が喫食を行いました。学生は「準備やコミュニケーションの大事さを学んだ」「栄養情報の

深め、連携することの重要性を認識する学びとして、IPE（多職種・専門職連携教育）をこれまで以上に、協力して実施していくことが確認されました。

なお、

宝塚市と甲子園大学は、平成二十五年に包括連携協定を締結し、子育て支援や食育などにおいて協力して事業を行っています。



伝え方を工夫したことが勉強になった」「大量調理だからこそ、使用する器具を計算しながら調理するのが大変だった」「今回の献立は旬を意識して作成した。トラブルはあったがチーム一丸となって問題を解決できた。この経験を臨地実習に活かしたい」と語っていました。今回の実習を経て、学生は目標とする管理栄養士へと着実に成長していきます。

伏木亨副学長 ラジオ出演

四月十五日、副学長の伏木亨教授がKBS京都ラジオ「山田啓二のローカルフィット」に出演しました。伏木教授は、子どもの頃から食に関心を持っていたこと、大学・大学院では酵素の研究をしていたこと、また、大学の助手として就職した頃から、当時誰も手掛けていなかった「おいしさ」の研究を始めたことなど、食にまつわるお話を思い出も交えて和やかに語りました。加えて、食を総合的に研究する食創造学科（来年度設置予定）への並々ならぬ思いも述べました。



学院生の活躍

中学校バレーボール部

○第七十四回西宮市民体育大会バレーボール競技大会（四月）
優勝

優勝

○令和四年度阪神中学校バレーボール男女優勝大会（六月）
優勝

優勝

○令和四年度第七十五回西宮市中学校女子バレーボール競技大会（七月）
優勝

優勝



「次の目標である、全日本中学校バレーボール選手権大会出場を目指して頑張ります。
一戦一戦全力を挙げて勝ち抜いていきます。」

高等学校バレーボール部

○春季西宮市高等学校女子バレーボール選手権大会（四月）
優勝

優勝

○阪神地区春季バレーボールリーグ戦（一部）（四月）
優勝

優勝

○全国高等学校総合体育大会バレーボール競技 兵庫県予選大会（六月）
ベスト8（近畿大会出場）
優秀選手賞 下川千博（高三）



「今回の兵庫県予選大会ではベスト8と悔しい結果になってしまいました。もっと練習を積み重ねて、次の近畿高等学校バレーボール優勝大会では、楽しく自分たちらしいバレーで一つでも多く勝ちたいと思います。」

中学校剣道部

○第七十五回西宮市民体育大会中学校剣道競技大会（四月）
団体 優勝



○令和四年度西宮市中学校総合体育大会（団体戦）（七月）
団体 優勝

高等学校剣道部

○阪神地区高等学校総合体育大会剣道大会（四月）
団体 優勝

優勝

○兵庫県高等学校体育大会剣道大会（六月）
個人 3位 山崎さくら（高三）
個人 3位 橋本 凜音（高一）

個人 3位

○令和四年度西宮市中学校総合体育大会（団体戦）（七月）
団体 優勝

優勝



「剣道部は現在、高校生十五名・中学生五名の計二十名で稽古に励んでいます。井上主将（高三）を中心に「生活即剣道」を合言葉として、部活動だけでなく学校生活や私生活においても、手を抜くことなく生懸命に取り組み、全国大会で活躍できるチームに成長していきたいと思っています。」

ソフトテニス部

○西宮・芦屋高等学校ソフトテニス選手権大会（六月）
団体 3位

ソフトテニス部

○西宮・芦屋高等学校ソフトテニス選手権大会（六月）
団体 3位

団体 3位

○西宮・芦屋高等学校ソフトテニス選手権大会（六月）
団体 3位

団体 3位

「ソフトテニス部の部員はみんな明るく、元気に学校のグラウンドで、毎日の練習に全力で取り組んでいます。暑い日、寒い日、風の強い日も部員みんなが時間を共にすることで一体感が増し、試合でのチームワークが生まれているように感じます。
また、外部指導員の先生にも来ていただき、技術面の指導はもらっていますが、精神面についてもたくさん教わっています。今年度の目標は、昨年度たせなかった兵庫県大会に出場することです。」



役職人事

退職

幼稚園 園長 塚本 康子
（三月三十一日）

採用

幼稚園 園長 佐々木 ゆかり
幼稚園 園長補佐 塚本 康子
（四月一日）

大学 事務局長 井坪 玄
（五月三十一日）

大学 事務局長 井坪 玄
（五月三十一日）

令和4年度 園の輪編集委員

久米多香子（編集委員長）	佐藤 典子	浅井 航洋	片桐由美子	上田 智佳	中野久美子	猿丸 恭子	平田智永子	加賀瀬順平	徳島 孝亮	馬部 真也	西田 朋世	坂田 和隆	黒嶋 俊之	西脇 敏行
（大学）	（大学）	（大学）	（大学）	（短大）	（短大）	（短大）	（中高）	（中高）	（中学校）	（小学校）	（幼稚園）	（法人）	（法人）	（法人）

あとがき

◆編集委員が少し変わりました。
今年度、学院各学校園は感染拡大防止のための工夫や努力を継続しつつ、様々な行事や活動を予定していますので、できるだけ多く紹介していきます。

園の輪

そののわ No.181

令和4年7月12日発行

学校法人 甲子園学院

〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号

TEL. 0798(67)2100

FAX. 0798(67)5488

http://www.koshien.ac.jp/honbu/